

2001年度（平成13年度）第8回常務理事会記録

日時：

2001年（平成13年）11月30日（金）11:00～14:00

場所：

学士会分館1号室

出席者：

廣川信隆（理事長）、猪口哲夫、河田光博、高田邦昭、山科正平（以上常務理事）、
依藤宏（幹事）、小森雄一郎（学会事務センター）

欠席者：

なし

I. 会議記録の確認

2001年（平成13年）第7回常務理事会記録（案）が承認された。

II. 報告事項

1. 庶務報告（猪口哲夫庶務担当理事）

A. 会員移動（正会員2,610名 2001年10月31日現在）

■ 2001年（平成13年）8月分

- i. 入会者：正会員4名、学生3名、賛助3件
- ii. 退会者：正会員9名、学生2名、名誉1名（逝去退会：植松平馬氏）
- iii. 住所変更等8名

■ 2001年（平成13年）9月分

- i. 入会者：正会員6名、学生3名、海外1名
- ii. 退会者：正会員2名
- iii. 住所変更等18名

■ 2001年（平成13年）10月分

- i. 入会者：正会員12名、学生9名
- ii. 退会者：正会員2名、名誉1名（逝去退会：永井昌文氏）
- iii. 住所変更等43名

B. 逝去会員

永井昌文氏（九州大学名誉教授 / 名誉会員）10月3日逝去（享年76歳）

徳永叡氏（岡山大学医学部解剖学第三講座 / 学術評議員）11月3日逝去（享年60歳）

C. 教授就任による学術評議員就任者

天野修氏（明海大学歯学部口腔解剖学第二講座 / 旧 金沢大学医学部解剖学第一

講座助教授、就任日：2001年10月1日付)

D. 学会に届けられた文書等

i. 通知

- a. 日本学術会議より「登録学術研究団体における日本学術会議会員候補者等の選出課程について（集計結果概要）」
- b. 日本医師会より「平成13年度日本医師会医学賞ならびに医学研究助成費」受賞者決定報告
- c. 東京都神経科学総合研究所より「第24回神経研シンポジウム」開催案内
- d. (財)日本医学協会より「日中医学大会2002」開催案内（パンフレット）
- e. (財)藤原科学財団より「第43回藤原賞受賞候補者」推薦依頼（III. 審議事項1参照）

ii. 書籍・定期通信他

- a. 日本医学会より「日本医学会だより2001年10月No.26」
- b. 国立情報学研究所より「NII News No.6,7」
- c. 日本医師会より「JMAJ Vol.44 No.8,9,10」
- d. (財)日本学術協力財団より「学術の動向2001-10」
- e. (財)内藤記念科学振興財団より「ニューズレター 第22号」
- f. (財)井上科学振興財団より「平成12年度事業報告」
- g. 理化学研究所脳科学総合研究センターより「RIKEN BSI NEWS No.13」及び「Major Publications from BSI 2000」
- h. (社)日本整形外科学会より「日整会広報室ニュース 第47号」
- j. 科学技術振興事業団より「J-STAGE NEWS No.3」
- i. 名古屋大学医学部より「第21回人体解剖トレーニングセミナー（2001）」報告書
- j. 医学書院より「医学研究者名簿2001-2002」
- k. 中日友好医院より「中日友好医院学報 第15巻3号」
- l. 第一軍医大学図書館より「中国臨床解剖学雑誌19-3」及び「JOURNAL OF MEDICAL COLLEGES OF PLA 16-2」

iii. 会告掲載、推薦及び出席依頼等

- a. (財)日本宇宙フォーラムより「第6回宇宙環境利用に関する地上研究公募案内」掲載依頼
- b. 国際生物学賞委員会より「第十七回国際生物学賞授賞式」出席依頼
- c. 日本医学教育学会より「第7回学会教育委員会協議会」出席依頼 期日：2002年1月18日（金）会場：津田ホール（千駄ヶ谷）
- d. 千里ライフサイエンス振興財団より 千里ライフサイエンス技術講習会第28回「DNA Chipの最新技術（III）」会告掲載依頼
- e. 日本学術会議より「ノーベル賞100周年記念国際フォーラム」協力（後援）依頼

f. 3次元画像コンファレンス2002実行委員会より「3次元画像コンファレンス2002」協賛及び会告掲載依頼

※上記6件について下記の如く対応がなされている。

- a, d : 「解剖学雑誌 第76巻第5号」及び学会ホームページに掲載
- b : 今回は出席を見合わせた
- c : 妹尾春樹 教育委員会委員長に出席依頼
- e, f : III. 審議事項2 A、B参照

2. 編集報告（高田邦昭編集担当理事）

A. 解剖学雑誌 第76巻第5号発送

発送日：2001年（平成13年）11月11日

発送部数：2,532部（製作部数2,700部）

B. 「Anatomical Science International (ASI)」及び「解剖学雑誌」刊行準備状況について

会員宛に投稿依頼が発送されホームページにも掲載中であること、2002年のASIは年4回、1号あたり60頁、和文誌は年4回、1号あたり30～40頁となること、巻号はともに現在の解剖誌の巻号を引き継ぐことが報告された。

C. ホームページについて

- a. 理事長挨拶が更新された。
- b. 解剖学用語委員会（清木勘治委員長）編集の「日本語による解剖学用語」（案）を2001年（平成13年）11月1日～2001年（平成13年）12月31日の間学会ホームページに公開し、委員からの意見を募集することになった。
- c. 「委員会ニュース」に委員会活動を掲載することにした。
- d. 解剖学雑誌の頁数の関係から現在の会議記録はホームページに移し、要点のみを雑誌に掲載することが提案され、承認された。

D. その他

ASIは刊行に関する科研費補助金の申請を行ったが実績・総ページ数などから交付についてはかなり難しい状況にある。

3. 企画・渉外報告（河田光博企画・渉外担当理事）

- A. 第107回総会・全国学術集会準備状況について：登録演題数422題、参加登録者数約700名等の報告があった。
- B. 第3回APICA準備状況について：登録演題、募金の状況についての報告があった。
- C. 第16回国際解剖学会議準備状況について：学術会議に理事長名で共同主催の要望書を提出し、補助金獲得を目指す等、準備は順調に進行中である。
- D. その他：米国解剖学会次期会長R.S.McCuskeyとの話し合いの経過について報告があった。

4. 会計報告（山科正平会計担当理事）

A. 2001年度（平成13年度）9～11月分収支についての報告があった。

B. 賛助会員入会キャンペーンについて経過報告があった。

C. その他：新広告料金を掲載した学会誌広告案内が紹介された。

III. 審議事項

1. (財)藤原科学財団からの「第43回藤原賞受賞候補者」推薦依頼（締切り平成14年1月31日）について審議した結果、理事、支部長、学術委員会委員長、教育委員会委員長より推薦を受け常務理事会で候補者を最終的決定することとなった。
2. 後援及び協賛依頼
 - A. 日本学術会議より「ノーベル100周年記念国際フォーラム」協力（後援）依頼
 - B. 3次元画像コンファレンス2002実行委員会より「3次元コンファレンス2002」協賛及び会告掲載の依頼の2件について審議した結果、A, Bともに後援、協賛については承諾することとなった。
3. 永年会員推薦の件
候補者の一覧が呈示され、理事会に諮ることが了承された。
4. 各種業務委託契約更新の件
本学会と(財)日本学会事務センター間に交わされている各種業務委託契約に関し、2002年(平成14年)1月から2002年(平成14年)12月31日までの契約更新が承認された。
5. 2003年度(平成15年度)科研費審査委員候補者選出選挙「推薦委員会」の設置について
2003年度(平成15年度)科研費審査委員候補者「推薦委員会」委員案が呈示され、理事会に提案されることとなった。尚、学術会議解剖学研連平野委員長より平成15年度(2003年度)以降の科研費審査委員候補者選任に際しては、
 - A. 研連所属の他学会との協議に要する時間を確保するため、できるだけ早期に候補者を選定すること、
 - B. 細目のキーワードを念頭に置いて適切な候補者を選出することの2点の要望があった。
6. 特別委員会「倫理委員会」の設置について
専門委員会として「倫理委員会」を設置すること、及びその委員案が呈示され理事会に諮ることが承認された。
7. 2002年度(平成14年度)事業計画(案)について
資料に基づき審議された結果、第4回理事会に諮ることになった。尚、山科常務理事より提案のあった講習会あるいはワークショップの開催については継続審議とすることとされた。
8. 2002年度(平成14年度)予算(案)について
資料に基づき山科会計担当理事より説明があり、審議の結果、第4回理事会に諮ることになった。2001年度との大きな変更点は収入については、
 - A. 団体会費収入に関し、従来は学会事務センターに業務委託していたため総収入の6割が収入となっていたが、これを2002年度からは山科理事が中心となり、事

務業務を行うことで全額学会会計に繰り入れる。

- B. 名簿頒布を有料化することに伴う収入が計上された。
- C. 広告掲載収入は、学会誌が年間8冊に増えることと名簿作成に伴う分を上乗せすることにより若干高めに設定した。
- D. 賛助会員、単年度の寄付の募集は来年度も引き続き推進したい。
- E. 積立金取崩収入が2002年度（平成14年度）は名簿作成の年にあたるため計上された。
- F. 海外交流積み立て資産を取り崩して第16回IFAAの準備にあてる。

などであり、支出については

- A. 学会誌出版費が和洋分離に伴い変更になっている。
- B. 奨励賞、功労賞関係費をメールの活用などにより額をおさえた。
- C. 日米合同シンポジウムが来年度は予定されていないので研究活動費を設けなかった。
- D. 会議費については会場を大学等で開催することとし、できる限り削減した。
- E. 会員名簿作成の年度にあたるのでその刊行費目ができた。

などである。

9. 会員名簿（2002年度（平成14年度）版）刊行について

猪口庶務担当理事（会員名簿作成委員会委員長兼任）より作成スケジュール、CD-ROM化、配布形式、オンライン化、掲載形式、経費などの諸点について報告があり審議の結果、冊子版を主、CD-ROM版を従とし、ともに有料予約出版とすること、オンライン化は時期尚早であること、掲載形式は所属機関別と50音順の折衷様式とすることを常務理事会案として理事会に提出することになった。

10. 2002年度（平成14年度）以降の解剖学会抄録号の取扱について

- A. 全国学術集会抄録号は解剖学雑誌のSupplementとして全国学術集会当番校において印刷発行する。表紙は中西印刷より解剖誌の体裁のものを借りるが、中身は当番校の地元の出版社で印刷する。この発行費については本部よりの補助金を出す等を常務理事会案として理事会に提出する。
- B. 地方会抄録については解剖学雑誌本体に含めることは頁数の関係から難しく、全国学術集会抄録号に含める、ホームページに掲載するなどの方法が考えられるが、この問題は支部長会、理事会を通じて議論の上決定する。

以上2点が承認された。

11. 2004年度（平成16年度）解剖学会総会の開催方法について

国際解剖学会議と重なる2004年度の総会は定款により春に行わねばならないが、東京で各種委員会とともに開催し、同時に委員会関連のシンポジウムについても実施することを常務理事改案として理事会に提出することになった。

12. 名誉会員・永年会員について

名誉会員・永年会員に対するアンケート結果について猪口庶務担当理事より報告が行われた。名誉会員・永年会員の方々の御意見を要約すると、

- A. 教授退任後、殆どすべて名誉会員となる制度の在り方については疑問が多く、今後基準を見直して限られた数の方々のみ名誉会員に推薦される制度であるべきで

ある。

B. 解剖学雑誌の配布については無条件に無料配布するやり方は改めるべきで、「希望者のみ有料で配布する」ことが望ましいのではないか、

ということである。今後、これらの御意見を踏まえ、名誉会員・永年会員制度をどうするのかについての具体的審議・検討がなされる予定である。

13. 支部学術集会のあり方について

支部長会、理事会を通じて議論の上、あり方を決定することになった。